

私は、6月議会において、仲川市長が提案した「市長、副市長など特別職の退職金を廃止する」という案に賛同し、議員有志で提案された「市長の退職金のみを廃止する」という修正案に反対いたしました。

議案の中身を比較する

市長の提案

『市長をはじめ、副市長、教育長、水道事業管理者、常勤監査委員といった、すべての特別職の退職金を廃止』

(市長以外の特別職は、6月末までの退職金は支給し、7月以降は不支給)

議員有志の修正案

『市長の退職金のみ廃止』

市長、副市長など退職金

市長	34,496,640円
副市長	19,436,160円
教育長	11,283,149円
水道事業管理者	11,283,149円
常勤監査委員	8,077,200円

合計 約1億400万円

市長、副市長など特別職の退職金を廃止しようという、市長の提案に賛同しました！
ところが…

私の基本的な考え方

- 特別職の仕事と重責には敬意を持っている。しかしながら、奈良市の財政は切迫しており、「今まであったからこれからもある」という前提には立てない。
- トップが身を切り手本を示さないと、職員、市民はついて来てくれない。
(民間は、退職金どころかボーナス、月給すら保障されていないのが実情)

他の議員たちの意見 ⇔ 私の反論

- ◆議案の出し方が唐突、議論の時間が少ない、市長は議会を軽視している
 - ⇔ 議論の時間が少ないという問題はあるが、議案の内容を絶対評価すべき。仮に市長が議会を軽視したとしても、される議会にも問題があるのでは。この意見は、本論とは別の問題。
- ◆市長だけならともかく、他の特別職を巻き込むのは気の毒である
 - ⇔ 特別職は選ばれし職位で、トップの一員である。仮に気の毒に感じても、それは提案者である市長が悩み、処理・解決する問題である。そもそも、そういった私情を賛否に反映すべきではない。

◆生活設計を狂わせる恐れがある。

⇒ これも、提案者である市長が悩み、処理し、解決する問題である。

特別職に登用される職員は、職員を辞職した時、民間では考えられない高額退職金をすでに一度もらっている。民間人は、この経済状況の中、住宅ローンを払えない、ホームレスになるなど、もっと生活設計が狂っている人がたくさんいる。

多いで
3400万円

また、これから特別職に就く人は、退職金がないことをわかって就任するので、問題ない。

◆有能な人材が集まらないのではいか。

⇒ 月給で厚遇されている。副市長 935 千円、教育長・水道事業管理者 792 千円、常勤監査委員 635 千円という月給に、夏冬の期末手当（ボーナス）があり、外部からの登用も十分可能であると思われる。

採決の結果…

しかし、市長案に賛同し、修正案に反対したのは、39人のうち、私を含む2人だけでした。完敗です。

民意は、市長案を支持していただけたと思いますが、今回、議会では通用しませんでした。

でも、惑わされず、変えようとする側に立てていることは、収穫だと思っています。

みんなで努力して、将来、奈良市の財政が良くなってから、その時は…もっとたくさんの退職金をもらっていただきたいと、私は思っています。

「千里の道も一歩から。」と信じてがんばります。

平成22年6月23日

横井 雄一

この件について、一市民として、ご意見をお聞かせください！

横井雄一 090-3289-9011 yokoi-y@kcn.jp

